

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472800343		
法人名	社会福祉法人 玖珠会		
事業所名	グループホーム 笑みの里①		
所在地	大分県玖珠郡玖珠町大字大隈322番地の2		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成30年4月27日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成30年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑みの里では家庭的な雰囲気の中で、季節の行事の参加や行事食(餅つき・おせち・月2回のお赤飯)を職員と作り、季節感を味わって頂いている。
利用者様一人一人を尊重し、出来ることを減らさないよう自立を目指した日常生活を支援することで、安心・安全な生活が送れるように努めています。また、職員が理念に元付き、利用者様を主としたケアを行い、ゆっくりと関わりを持つよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かで一目で山々が望め、広々とした田園が広がり豊かな四季を感じられる環境にある。家庭的な雰囲気に気を配り、季節の行事の参加や食事についても利用者本位に工夫され笑顔で向き合っている。
全ての食事が手作りで、買い物等一緒に出掛けたり居心地よく温かい生活が送れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は見えるところに掲げ、管理者と職員が理念を共有し、日々実践している。	理念を自然と目に付く所に掲げ、理念を基に職員が共有し意識付けされておりケアに反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月地域交流会を開催し、その月にふさわしい行事や、催し物を企画したりお茶でふれ合っている。地域ごとのオレンジカフェに参加することで外出機会をもうけ、ホーム内だけの生活にならないように心掛けている。	地域の方々との交流会が毎月開催されており、オレンジカフェ等の外出の機会を活かし交流を心掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族や地域の方々と交流する場を設けて、認知症の理解や支援方法を実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一度、家族、地域、入居者代表と福祉課係長に参加して頂き運営状況の報告、これからの方針や問題点を話し合い、参加者の意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度の会議では近況を知らせ、問題点など課題に沿って出席者より意見を頂き支援に繋げている。議事録も詳細に記録されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時に入居者の状況、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えて、協力関係を築いている。	担当者と連携が取れており、相談しやすく、頂いた意見や助言を支援に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の意味を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間のみ入居者の安全対策の為、どうしても必要な方にはご本人、ご家族に了解を得てセンサーマットの使用をし、必要最低限の実施をしている。	内部研修も行われ職員会議等の他、折に触れ、ケアの実践に繋げるよう努めている。日常的に職員間で人権尊重に気を配っている。夜間のみセンサーマットの利用者あり。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会議の参加や、職員間で虐待の種類や認知症に対する理解を常に話し合い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は研修会に参加し、必要に応じて活用できるよう関係者と話し合うようにしている。子供のいない方の金銭管理を安心サポート(社協)をお願いしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時における重要事項説明書や利用契約書の説明を十分行い、理解、納得された上でサービスが始められるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、アンケート用紙を配置し、書きやすいようにしている。また、運営推進委員会や家族会、サービス向上委員会を設け意見、要望を聞き運営に反映させている。	法人にサービス向上委員会があり、集まった意見は関係者等と連携して対応し運営に反映させている。家族会が年2回あり意見箱の設置もあるが、今は意見が入っていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティングの際に提案や意見を聞き反映している。	職員会議やミーティングでの意見を管理者等に挙げ、働く環境や勤務方法の事でも検討し、決定に関われるよう支援されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考課表にて個々の努力等を伝えることができている。職員の希望を聞き、各自が向上心を持って働ける職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内研修の参加や外部研修の参加にてスキルアップに努めている。研修を受けた職員は、全職員が共有できるよう園内研修で報告する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム日田玖珠連絡協議会で行われる会議や研修会に参加し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、ご家族やご本人にお話を伺ったり、ケアマネ等の情報を基に不安や困難事項に早期対応し安心して生活が送れるように努めている。入居後は不安な様子、困った様子はないかお聞きし相談のある時には耳を傾け信頼関係を築けるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から細かい情報収集と不安な事、要望などをお聞きしケアの向上に努めている。また面会時、状態報告を行い信頼関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時の聞き取りを必ず行い、他の専門機関と連携を取り、ご本人、ご家族が安心して満足できるような支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個性や生活歴を大切にし、ご自分でできることは可能な限り本人にして頂き、出来ない事はサポートしともに寄り添って暮らしていける信頼関係作りに努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様が安心して生活できるようにご家族に近況報告を行い、時には家族の強力を得て、ご本人をサポートできる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の面会は自由で、いつでも来ていただけるようにしている。また、なじみの美容院や理容院、なじみの方との関係が途切れず続けられるよう支援に努めている。	入所の折に家族からの情報を基に馴染みの店や美容院との関係が継続されるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	椅子やテーブルの配置を常に考え、必要な場合は座る位置の移動を行う。利用者様が楽しく孤立しないよう支援し、不穏状態等の場合にも職員が見守り、関わり合い支え合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご本人の病院を訪ねたり、ご家族の相談や支援に努め関わりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や声かけへの際、利用者様の表情や態度からその日の気持ちや、状態を把握して必要な場合はゆっくりお話をお聞きし対応している。	入所時に家族の方より日頃の様子を聞く等で、個々の要望を把握できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りや、入居前の生活状況の情報を基にこれからの暮らしに戸惑わず、安心して生活できるよう職員全体が情報を把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は常に一人一人の心身状態を把握し、申し送り等で情報を共有し個別サービス記録に記入する事で、状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を尊重しながら、日頃の関わりの中で職員間での気づきを取り入れ、介護計画書を作成している。また状態変化のある時には会議等で意見を出し合い、計画の変更を行っている。三カ月に一度モニタリングを行う。	今の状況を把握し担当者と共に話し合い、家族の意向も尊重しながらそれぞれの意見を活かすよう計画作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護計画書を元にケアを実践し、日中夜間共に毎日の様子を具体的に記録し、全職員が情報の共有をしながら実践し、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状態に対応できる柔軟性を持って、サービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方やボランティア活動の受け入れを行い、入居者様と共に楽しんで頂けるような支援を行っている。また、オレンジカフェへの参加によって楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族の希望を尊重し、適切な医療が受けられるよう支援している。	本人や家族の希望を聞き以前からのかかりつけ医との連携を取り、適切な医療体制が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の状態を把握し小さな変化にも気づき、同法人の看護師や法人の協力病院と連携を行っている。連絡、報告も密に取れる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院の際には、病院へ足を運び早期に退院できるよう、情報交換や相談を行い、病院関係者との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向をふまえ、医師と職員が連携を取り穏やかな最期を迎えられるように、入居時及び随時意思を確認しながら取り組んでいる。	入居時に本人や家族と話し、重度化や終末期に対して文書化されている。看取りはなし。法人内の特養への移動もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	園内研修や勉強会を行い、急変時や事故発生時に備え、緊急時対応についてマニュアルを掲示し周知を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、防災避難訓練を行い、年に一度は消防署、警察署、地域の住民と連携を保ち協力体制を整えている。災害時に備え、食料や飲料水を確保している。	毎月防災避難訓練を行い、年に1度は消防や地域住民と連携を取り、協力体制が整っている。備蓄あり。法人全体でもあり。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の特性を理解、受容し尊厳を守り入居者様一人一人に合わせた対応をしている。個人情報については、責任ある取扱いと管理をしている。	利用者の人格を尊重し内部研修もあり、さりげない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取りながら本人の思いを引き出し、自己決定が出来るような支援と働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペース尊重し、思いのまま過ごして頂けるように配慮している。また、活動を行う際も参加されるか確認し希望に添った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様一人一人の身だしなみやおしゃれに職員が関心を持ちご本人が好みの衣類の購入や、理美容室への外出支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは入居者様の意向を取り入れ、季節に合わせたメニューを考えている。野菜の皮むき、片付けも一緒に行っている。	食事は3食とも手作りで、入居者も野菜の皮むきや配膳等を手伝っている。季節の旬の野菜を使った昔ながらの馴染みのものや雰囲気作りに工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は個人日誌に記載し情報の共有を行い、それぞれに対応できるようにしている。(牛乳・野菜ジュース・コーヒー等)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援が必要な人には毎日、職員が付き添って支援している。ご自分でできる人には、声をかけて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人一人のパターンを理解し出来る限り、自立した排泄を促し、声かけや誘導を行っている。	自立支援に向けてパターン表を利用しながら適時の声掛けや確認をしている。完全おむつの方は1名のみ。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の冷たい牛乳や運動を取り入れ食事繊維の多い食材、野菜を多く使った食事作りを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調やタイミングを見計らい、希望に合わせて入浴ができるように支援している。	利用者本位での入浴、声掛けもあり。拒む人には足浴から促しながら対応に工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、眠れない方には職員が居室やフロアにてお茶を飲んで頂いたり、お話をしながら安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者全員の服薬の内容を把握しており、症状の変化等を申し送りする事で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事への参加や施設内でのレクリエーションや家事参加支援において気分転換や意欲を出して頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事やご家族の意向に沿い外出は積極的に促し、日常的にも外気浴や日光浴など支援している。	年間を通じて行事があり、積極的に工夫している。車椅子利用の方にも一人対応して戸外へ出る様に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理のできる利用者様には所持していただき、ショッピング等で使用できるように支援している。また、ご家族には金銭の利用状況をお伝えしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方への電話連絡等のご本にの希望に応じ、いつでも電話ができるように支援している。手紙を書いた方には郵送する支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした共有空間には観葉植物や季節の生花を活けて四季の移ろいの感じられる潤いのある空間づくりに努め、気持ちよく暮らせるよう支援している。	広々とした共有空間があり、観葉植物があちこち飾られており空気感が良い。ソファや椅子が移動されやすく置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所(談話室・食堂・居間)でゆったり過ごせるように、腰掛やテーブルを配置し、自由に居心地良く過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の居室は入居時にご家族と相談して自宅に近い空間作りをして居心地良く過ごせる工夫をしている。	本人の使い慣れた馴染みの物や家族の写真や手作り作品を置き、落ち着ける様工夫されている。安らげる空間作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が自立した生活ができるような作りになっており、又分かりやすい表示で安心な環境作りをしている。		